

本日の農試験粉碎行動に決起せよ!!

みんなとすり草いされの中で、噂ぐれはすぐできつてこまつた。大澤の諸君はすべて機械の侵害がしからかってることを、
1970年の農場実習は、一切の農場部に存する矛盾を露呈して、今藤を用いすうとしている。鷲山厚生長は、今後、ほつきりするまで農場実習は行
きわざい、と言った。しかし、農場実習が、農芸化学科に多いと心痛となつたとき、假しはなんと言つたのか。「實習においと、抽象的でシゴ子
をえない農業を、現実に結びつくべく、何が解説されたというだ! 今こそ、現実に根ざした農業が必要となっている。結論を云えども、断固
をえないと農業を貢献すやさだ。昨年秋の明文斗争、農学部再編斗争が語ってきたとき、さつ矢にある、技術革新を基盤にした諸科毎の自立、実証的研究が
戦後の「政治一生活」の近代化、民主化という「価値意識」と結合することによって、「大学と研究の場」が社会の矛盾の解決、普遍的発展など
という戦略的価値を国内の諸個々をとらえ、それをやって、あたかも、自己が社会的責任を果しているといった幻想を、今、ほつきりと抹殺して
ゆかねばならない。大學当局の農場実習破壊の裏には、まさに、農場部、いふて今日における文部の學問内容そのものの破壊を意味してゐるのであ
る。しかししながら、「常識」だからといった形で、今まで試験が強行されようとしている。唯一しあし今から、最大の武器である専門規定という
暴力をもって、くわざそれから、表掲にあった答案という形で、学生をイデオロギー的だと攻撃してゆこうとしている。

學問とは、一体現実の問題への自己的の關わりとて、歴史的、社会的にこれに普遍的表現を与えるといった意味を含むに附がえらん。常識
という名によつて、教授会は、學問を放棄し、學問を守ろうとしている。この矛盾の解決、根本的の解決以外に、なにをもつて學問を語ればう
我々は農場実習を通して、以上の兼拠はつきりと放棄し、今、農場実習の終括的行動とて、本日からの農学部再編試験粉碎斗争をとつて、若
且、立派な士とおいて約束していった問題の解決をしてゆきたい。

しかし、農試験粉碎を単に我々の個別利害の追求とて幕を閉じてはならぬ。明確に自己の位相をはつきりと確定しておかるければならぬ。
現在的に、我々は、「也不石精斗争」、「三里塚斗争」に現斗団を組織し、具体的な反対をも向けていた。既ち、各地区にあける個別の問題を学内、
具体的には、研究室、サークル、クラス等にそちがえり、そちをもつて、研究室反対連合、サークル共斗を通じ、それをもつて、具体的に、今着
々との運動が進みはじめて、二つの反対大戦として、和光大学、桜美林大学、玉川学園、東海大学、そして國士館大学等で、共通の問題をも
つて地区共斗へとこの眞摯の歩を進めてゆく。

現在的、幻想をはずした学園の中にはつて、唯一、無効力者の魂れミノとしてある「研究室」として「サークル」と、農試験粉碎の内いで
つきつけでゆく。生田祭が要求しているのは、その廢もあり、近くにあつては10、21にかけて、我々が農試験粉碎を通じて、全国において斗か
っている。三里塚の農民、也不石精の労働者、そして連帶する市民、入管を斗かっている人民、そして国政参加を通して、沖縄五日市の基地にし
ようとしている。权力の核離と質を共有し、學問とは何かを詰つてゆくねばならぬ。よく君達が、全學評は學問を否定するのと盾向すれば
我々は次の學問に答える事を要求する。全国の学園をして我々が、學問を否定するが存じないのは何故かと、農試験粉碎する。

農学部試験を実力で粉碎せよ! 全學評

10/12